

令和7年度 中学生の「税についての作文」受賞作品 <静岡地区>

賞	学校名	学年	氏名	題名	頁
東海納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡市立西奈中学校	3年	加藤 瑞稀	信頼でつながる社会	2
静岡税務署長賞	静岡市立竜爪中学校	3年	佐藤 莉風	税を学び暮らしへつなぐ	3
静岡県静岡財務事務所長賞	静岡市立大里中学校	2年	森下 芽凜	税金を支える安心と私たちの責任	4
静岡市長賞	静岡市立東豊田中学校	3年	高島 由衣	税の課題、そして未来へ	5
静岡税務連絡協議会会長賞	静岡市立大里中学校	3年	谷川 敦貴	支えられているということ	6
静岡納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡市立西奈中学校	3年	長塚 柊磨	基盤	7
東海税理士会静岡支部長賞	静岡市立中島中学校	3年	加藤 優月	支えられて走る、税と陸上	8
一般社団法人静岡青色申告会 会長賞	静岡市立西奈中学校	3年	山口 芽生	あなたが払った税金	9
一般社団法人静岡法人会 会長賞	静岡市立西奈中学校	3年	滝浪 旬詠	私の足にも使われていた税金	10
静岡間税会会長賞	静岡市立中島中学校	2年	佐藤 綾華	税の意味	11
静岡酒類行政連絡協議会 会長賞	静岡市立中島中学校	3年	堀井 大夢	税で支え合う社会	12

※掲載にあたり、一部の誤字等を修正しています。

「信頼でつながる社会」

静岡市立西奈中学校 3 年 加藤 瑞稀

この前、おばあちゃんと税金についてのニュースを見た。自分の中で税金とは「国の制度を支えるためのもの」というイメージを持っていたけれど、おばあちゃんは少し違う考え方をしていた。「税金ってね、制度じゃなくて“信頼”だと思うよ。」そう言われたとき、最初にはよく分からなかった。けれど話を聞いていくうちに少しずつ意味が分かってきた。おばあちゃんが言うには、税金は「みんながちゃんと払ってるって信じているからこそ、社会が回っている」ものなんだそうだ。誰かがズルをして払わなかったら、その分どこかで困る人が出る。逆に皆がちゃんと払ってるって思えるからこそ、安心して暮らせている。つまり、税金は「制度」ではなくて「人と人との信頼」で成り立っているということなんだと思う。その話を聞いてからふと、テレビで見た災害のニュースが頭に浮かんだ。遠くの地域で大きな地震が起きて、避難所に人が集まっている映像だった。避難所にある毛布や水、トイレ、食料などそれらを整えるには時間もお金もかかっている。きっとそこにも税金が使われていると考えると、見えないところで誰かが支えてくれているような気がして、少し安心した。自分は税金に対して普段は「取られるもの」というイメージが強かった。買い物のときに消費税がつくと、少し損した気分になることもよくある。けれど、おばあちゃんの言葉を思い出すと、それがただの制度ではなく「誰かを信じて支える仕組み」なのだと思えるようになった。もちろん、税金の使い方には色々な意見があるし、納得できないこともあるけれど「信頼」という視点で考えると、ただのお金ではなく人と人とのつながりのように感じられる。誰かが困ったときに、誰かが支えてくれる。このような仕組みがあることはとても大事なことでと思う。これから先、災害が増えたり社会のしくみが変わって税金に対する考えが変わることがあるかもしれないが、“税金＝信頼”という考え方は忘れないようにする。おばあちゃんの何気ない言葉で税金に対するイメージが大きく変わっていった。将来税金を払う立場になったとき、自分がその信頼の一部になれるように、誇りを持って生きていきたい。

「税を学び暮らしへつなぐ」

静岡市立竜爪中学校 3 年 佐藤 莉凰

中学に入学してから三年生になるまで、毎日のように通ってきた通学路は、デコボコで自転車で通るとガタガタと揺れてしまうような場所のある道でした。そのため、自転車通学の生徒はいつもその凹凸を避けるようにして通っていました。そんな道路が、ある日突然見違えるほどきれいに舗装されていました。たかが道路、されど道路。私は通いやすさをととても実感しました。それと同時に「だれがどうやって作ってくれたんだろう。」という疑問が浮かんできました。調べてみると、費用は税金からでていることが分かりました。歳出総額約百十五兆円のうち、公共事業関係費（道路や住宅の整備費用）は五．三％の約六兆円をものが割り当てられているそうです。そもそも道路の舗装に税金が使われているなんて思ってもみなかった私にとって、これは印象的で深く心に残ることでした。

他の税金の使い道では、「社会保障」というものがありました。全体の三十三．二％の約三十八兆円が割り当てられる社会保障は、年金や医療、介護などのことだそうです。これを調べたとき、私は病院で料金がいつも五〇〇円だったことを思い出しました。母にくわしく聞くと、五〇〇円で済んでいるのは税金で他の分を賄っているから、とのことでした。自分が想像しているよりも、ずっと身近に税金で支えられるものがあったことに、私は思わず声が出るほどの衝撃を受けました。

正直な気持ちを言えば、私が税金に対して持っていたイメージはあまり良いものではありませんでした。消費税は十％に上がり、親が支払っている「住民税」や「所得税」などの税金は種類も多いことから、税金はただ高い、と思ったからです。しかし、今回の作文を書くにあたって、税金の使い道を調べ、知ることができました。税金が私の生活を身近なところで支えてくれていることを知ったことで、心があたたかくなりました。また、世間の税金に対するイメージが良くないのは、使い道を知らず、生活を支えられている実感がないからなのではないか、という考えをもちました。

税金を理解するために大切なのは「知る」ことです。私達が払った税は、どこで利用され、どんな姿をしているのか。知ることができれば、「自分が社会を支える一員」という実感が湧き、納税へのイメージも変わるのではないのでしょうか。私も今回の作文をきっかけに、税金への学びを深め、正しく納税できる大人になりたいと思います。

「税金が支える安心と私たちの責任」

静岡市立大里中学校 2 年 森下 芽凜

昨年、私の祖母が急性胆嚢炎で入院しました。高齢であることもあり、家族全員が不安に包まれましたが、無事に治療を受けることができ、数週間後には元気に退院することができました。

そのとき、私が強く感じたのは、「医療制度のありがたさ」でした。高度な治療を受け、長期間入院していたにもかかわらず、自己負担額は思ったより少なく、家計に大きな負担がかからなかったのです。それは日本の医療保険制度が、税金によって支えられているからと知りました。

もし祖母が同じ状況で十分な医療を受けられてなかったら・・・そう考えると、医療と税金の関係は、決して他人事ではないと実感しました。税金は、道路や学校だけでなく、人の命を守る仕組みを支えるためにも使われているのです。

私たちの暮らしの中には、他にもたくさんの税金の存在があります。私が通う公立中学校も、授業料がかからず、誰もが平等に教育を受けられるのは税金のおかげです。教室の設備や図書館の本、冷暖房など、学びやすい環境が整っているのも、社会全体で支えられているからだと改めて気づきました。

一方で、ニュースでは税金の無駄づかいや、不透明な使い方が問題になることもあります。納めた税金が正しく使われていないと感じれば、納税者の不満が生まれ、信頼も失われてしまうでしょう。だからこそ、税金の使い道に関心を持つことが、私たち若い世代にも求められているのだと思います。

私はまだ税金を納める立場ではありませんが、やがて社会に出て、自分の収入から税金を払うようになります。そのとき、「なぜ払わなければいけないのか」と疑問を持つのではなく、「誰かの安心や命を支える力になる」と実感できるようになりたいと思います。

祖母の入院をきっかけに、税金が私たちに与えてくれる「安心」の重みを知りました。税金はただの義務ではなく、社会の中で助け合うための仕組みであり、未来への責任でもあります。これからも税について正しく学び、考え、自分も支える側になっていけるよう努力していきたいです。

「税の課題、そして未来へ」

静岡市立東豊田中学校 3 年 高島 由衣

あなたは、先日の選挙で「減税」という言葉を目にしただろうか。その言葉は、演説に加え、ニュースや新聞でも大々的に報じられていた。その報道を見て、私はふと疑問を抱いた。減税とは字の通り、税を減らすことだが、税金は社会でなくてはならない物だ。もし減税したら私達の生活はどうになってしまうのだろうか、と。

まず、なぜ今減税が注目されているのか。それは、物価と賃金の上昇が噛み合わず、家計への負担が大きくなっているからだ。確かに、最近は食料品や生活用品など色々な物の値段が上がっている。しかし、賃金は物価高をカバーできるほど上がっていない。そこで、税負担を減らす、もしくは無くせば、手取りが増え、支出が少なくなり、家計の負担は小さくなるということだ。そういった理由から減税が政策の重点となっていた。実際に、家計に関わる税金である所得税の減税は令和六年度に実施された。所得税は、給料から支払う税のことで、このことによって家計にゆとりが生まれ、消費者にとって良い効果があったと言える。

しかし、減税を求める声が大きい一方、実現させるには難しい面がいくつかあるのも事実だ。そもそも、税金は現代社会の基盤となっている。例えば、税収の約三割は社会福祉に使われており、教育や交通の整備、地域への支援にも使われている。そんな税収がより少なくなれば、国民の実質的な負担は増えてしまう。

次に、税収が少なくなると、政策が実現できなくなる可能性がある。国家の財源は税金であるため、資金がなくなると将来のためのサポートができなくなってしまう。特に最近は少子高齢化による現役世代への負担が増えており、対応が求められている。

このように、税を取り巻く現状には様々な課題がある。よりよい社会を作るためには、賃金や少子高齢化などの問題を解決することが必要不可欠だ。では、私達にできることは何だろうか。

一つは、税について正しい知識を得ることだ。そうすることで、税の在り方を考えるきっかけになるだろう。偏った知識ではなく、多面的に税の仕組みを知ることが大切だ。ささいなことでも調べてみるなど、積極的に情報を仕入れると、税に対する関心が持てる。また、税への関心を周りに広めていくことも大切だ。税について友達と話してみることで、違う意見に触れたり、自分の考えを確立したりできる。そして、税も含めて、政治に対する自分の考えを持ち、投票に行くこと。それが私達ができる、税金に対する最大の意思表示となる。

税は、社会の変化に合わせて名前や制度を変えてきた。これからも、変えていく必要があるかもしれない。税の在り方を決めるのは、誰かじゃない、私達だ。

「支えられているということ」

静岡市立大里中学校 3 年 谷川 敦貴

僕は小さい頃から、病院に行くことが多かった。まず、斜視の手術を受け、遠視の治療で十歳までずっと眼鏡をかけていた。それからアレルギー体質だったので、耳鼻科や皮膚科でも長期間の治療をした。病院に行くと、診察の最後はいつも五百円を払い、たくさんの薬をもらって帰った。母がよく「薬をもらって」と言っていたので、僕はずっと薬は無料で出してもらえるものだと思っていた。病気が良くなったとき、僕は薬のおかげだと感じたが、「なぜ薬が無料なのだろう」と疑問に思った。調べてみると、それは国と静岡市が医療費のほとんどを負担してくれているからだを知った。子ども医療費助成制度という制度があり、十八歳までは、一回の医療費が五百円までになっていた。僕が眼鏡を買うときも、健康保険と子ども医療費助成の両方から補助が出て、何万円も少ない支払いで済んだ。これらのお金は子どもがいる・いないに関係なく、すべての人が税金や保険を通じ、支えてくれている制度なのだと分かった。日本ではこの制度のおかげで、全ての子どもが平等に安心して治療を受けられるのだ。

一方、アメリカの医療制度について調べてみると、日本と大きく違った。アメリカでは低所得の家庭の子供には公的な助成制度があるが、それ以外の家庭では、親が民間の医療保険に加入し、その保険料を親が払う。親の収入によって保険の内容やランクが決まり、どのくらいの医療を受けさせるかも親が決めなければならない。子供の医療に差が出てしまうことになる。

しかし高齢者の医療費が急増している現在日本の医療制度にも多くの問題がある。保湿剤の転売や薬の大量摂取などの報道からも、この制度を悪用する患者側のモラルの問題や国・自治体、製薬会社、医療機関などの対応にも様々な問題がある。今までの僕も病院での五百円を軽く考えていた。

子ども医療助成制度は、継続できるのだろうか。そのためには何が必要なのだろうか。まず僕は、薬をジェネリックに変え、忘れずに飲むようにして、健康な体作りのために一生懸命に部活に取り組んでいる。さらに、日本人の三人に二人が生活習慣病であるという事実からも、早寝早起きや食生活の見直し、たばこや飲酒をひかえるなどの予防が大切だ。小さな努力の積み重ねが病気を減らし、税金の無駄遣いを防ぐことになる。そして、その分の税金が、本当に必要な人のために使われ社会を支える大きな力になる。今、支えられている僕たち子どもも、十年後には働いて税金や保険を払い、支える側にまわる。僕は支えてもらった一人として、支えてくれた人たちへの感謝を忘れず、自分にできることから少しずつ行動していきたい。そして、これからも税金に関心を持ち、安心して暮らせる社会を支える大人になりたい。

「基盤」

静岡市立西奈中学校 3 年 長塚 柊磨

今日も何気なく道を歩く。水も、毎日当たり前のように使う。勉強する時には、教材を使う。そりゃそうだ。それが無ければ勉強出来ない。使うのが当たり前。いや、当たり前なのか？いや、それは間違いだ。この当たり前は、税金という名の基盤の上で成り立っている。医療、介護、災害復旧、数え出せばキリがないほどだ。今日も、税金という名の基盤の上で、人々は生きる。僕もその内の一人だ。僕は気になった。「税金が無くなるとどうなるのか」ということ。凄く気になる。そんな世界を、少し見てみよう。今日も何気なく道を歩く。いつもと同じ道を歩く、はずだった。道路が壊れていて、通れない。なんで修理しないんだ？仕方なく別の道へ。そこにはゴミが溢れかえっていた。なんでこんなにゴミが？だれも処理しないのか？そうではない。「やらない」じゃなく、「できない」のだ。税金が無ければ、道が壊れても修理が出来ない。ゴミ収集車も来ない。既に嫌になってきた。しかし、まだほんの一部だ。僕たちにとって大切な事の一つ、学習。学習をする場所といえば、学校。税金は、僕たちが学習する環境を最高の状態に作り上げている。教科書、校舎、プール、机、これらは全て税金が使われている。もちろん、この4つだけではない。他にも沢山ある。もし、税金が無ければ、この環境はどうなるのか？正直、考えられない。想像するごとに、税金の凄さを感じる。ではもう一度、税金の無い世界を見てみよう。あなたは今、担架の上に寝そべり、病院に運ばれるのを待っている。しかし、救急隊の人から、こんな言葉がかかる。「一回のご利用で〇〇円です。先にお支払いをお願いします。」この状況で、お金を払うのか？と思うが、救急車の運用にも税金が使われている。人件費も運用費もガソリン代も医薬品も全てだ。火災でも同じだ。目の前が炎で包まれようと、お金を請求される。お金が支払えなければ、いつまで経っても来ない、という事が起こり得るのだ。自分の財産が目の前で燃えようと、命の危機に晒されようと。警察も例外ではない。税金が無ければ、警察官もいなくなる、犯罪は増え、治安は悪化。捜査も逮捕も出来なくなる。なんともまあ、恐ろしい話だ。

税金の無い世界を調べてみたが、なんというか、少し怖くなった。こんな世界に、住んでみたいだろうか？僕はゴメンだ。でも、税金が無くなると、これが有り得るということだ。税金という名の基盤の上で成り立っている以上、その基盤が無くなれば、全て崩れてしまう。だからこそ、この基盤を守る人達が、世界には沢山いるのだ。今日も、明日も、この先も。いずれ、僕たちもその一員となるだろう。この世の「基盤」を、守るために。

「支えられて走る、税と陸上」

静岡市立中島中学校 3 年 加藤 優月

私は陸上部に所属し、毎日走ることに打ち込んでいます。練習や大会を通して感じるのは、走ることは自分の努力だけで成り立っているのではなく、たくさんの「支え」によって可能になっているということです。その中でも、税の存在は大きいと、僕は考えました。

市営の競技場で練習をするとき、きれいに整備され、走りやすい状態が保たれています。スタンドや更衣室、トイレ、トレーニングルームなども清潔で使いやすく、夜の練習では照明設備が明るく照らしてくれます。こうした施設は、私たちが快適に練習できるよう税金で維持されていると知り、見えないところでたくさんの人の努力とお金が支えられているのだと気づきました。

さらに、大会のときの出来事も心に残っています。私の友達がレースを走り終わり、その日は気温がとても暑く、軽い熱中症になり、倒れてしまいました。そのとき、トラックの横側で待機していた救護スタッフによって、友達はすぐに手当を受けることができました。こうした大会運営や救急体制も税によって支えられていると、後日知りました。目には見えないけれど、友達の安全や走りを守る税の存在があることを実感しました。

他にも、夏休みの合宿では朝から晩まで走り込みやトレーニングを行いました。疲れて倒れそうなとき、チームメイトが励ましてくれたり、水分補給の準備や休憩場所が整っていたおかげで最後まで走り抜けました。合宿で使ったホテルやレストラン、グラウンドも税金で整備されていると知り、安心して練習できる環境もまた「支えられている」のだと感じました。

また、私たちが毎日通う学校や道路、公共交通、教科書でさえも税によって支えられています。これらがなければ、安心して学んだり部活動に取り組んだりすることは難しいでしょう。税は、私たちの生活や学びを裏から支えてくれる大切な存在だと思います。

今の私は税に「支えられる」だけですが、将来働くようになれば「支える」側になります。陸上を通して学んだことは、努力だけではなく周りの環境や仲間に支えられてこそ力を発揮できるということです。同じように、社会や経済、全てひっくるめて日本も税によって支えられています。走ることで感じた「支えられている大切さ」を忘れず、将来は自分も税を納めて、安心して暮らせる社会や部活動の環境を支えられる大人になりたいです。

「あなたが払った税金」

静岡市立西奈中学校 3 年 山口 芽生

納得がいかない。最初はそう思っていた。何か物を買おうとするたびについてくるあの「税」は、財布の中を少しずつ減らしていく。後に「税」について学び、あの小さく見えないものは消費税だったのだと理解した。いずれにせよ、「税」に良いイメージが湧くことは一度もなかった。

それが一転したのは新学期のことだった。新しく配られた教科書。「印刷ミス等がないか確認して下さい。」とは言われたものの私の手には、傷どころか印刷ミスなどどこにもないきれいな教科書がある。この教科書の価格はどのくらいだろう。教科書の後ろには正確な値段ではなく、税によって無償で提供されている、とだけ記載されていた。家に帰って調べてみると、「文教及び科学振興費」とあり、理科室の顕微鏡からプール、校舎を建てるときにまで税は使われているようだ。それだけの額が税で賄われていると知れば、もう教科書に落書きをする気も起きなくなる。それどころか、自分が今まで払っていた「税」が人の役に立っているかもしれないと誇らしい気分になってくる。今はロッカーの奥底にある教科書も、そのように思う人の税金で作られているのかもしれない。こんなふう to 税の行方を考えるようになったのも、誰かに教えてもらってこそだ。そこで考えてほしい。

あなたの税金は何に使われているか。例えばゴミの処理。あなたが分別をしなかったとき、あなたがポイ捨てしてしまったとき、それを処理するのにどれくらいの税金が使われているか。もちろん税の正確な行方は私達には分からないし、言ってしまうとあなたがゴミをどうするかなんて自由だ。でも、あなたは自身が払っている税金がそれに使われていても良いのか。誰かが頑張って働いて手に入れたお金で払っている税金もそれに使われているかもしれない。どうせなら、最初からゴミを分別し、ポイ捨ては絶対にしない。そうした方が税の使い道がもっと良くなり、地球の為にもなると私は考える。

私達はまだ義務教育を受けている。でもそれももう少しで、私達はそれぞれの道へと進んでいく。一生税と向き合っていく私達に税を払う義務があるなら、その税をどう使うか考えることも当然の義務である。その為にもまずは「税」が使われているものに目を向けてみよう。教科書の後ろにも書かれている。「これからの日本を担っていく皆さんへの期待をこめ」税金によって無償で提供（支給）されていると。

「私の足にも使われていた税金」

静岡市立西奈中学校 3 年 滝浪 旬詠

私は中学一年生のときから、足の骨が出て痛くなる「有痛性外脛骨」という足の病気に悩んでいた。歩くと足の内側が痛くなり、体育や水泳もつらかった。病院へ行く度に、治療費がかかるが、十八歳までは一回五〇〇円で診察を受けられる制度があった。そのため何度も安心して通うことができていた。中学一年生の終わりに手術をすることになった。手術や入院には、高額なお金がかかると思っていたが、公的な補助があり、私たちの負担は少なかった。安心して治療を受けられる環境があるということはとても大切なことだった。

日本には子ども医療費助成制度という仕組みがある。これは市や県が税金を使い、十八歳までの子どもの医療費が安くなる制度である。例えば、先程かいた治療費が一回五〇〇円で薬代もほとんどかからないようになっていた。

また、手術や入院で高額な医療費がかかった時は、高額療養費制度がある。これは、ある金額以上の治療費は払わなくてもよくなる仕組みだった。さらに市や町が援助してくれる事が多く、高額な医療費もあまりかからないようになっていた。このような制度に使われているお金は、どこから出しているのか調べた。それは税金だった。私たちが買い物をする時の消費税や、親が働いて得る給料から引かれている所得税などが使われていた。税金は、国民で作る大きなお財布のようなものだった。一人ひとりが少しずつ出し合い、そのお金で困っている人を助けている素晴らしい仕組みだった。また、住んでいる町により、制度の内容が異なるのは、その町のリーダーが話し合い、どこにどれだけのお金を使うのかを決めているからであった。こうした事を知り、税金の使い道にもっと関心を持つことが大切だと感じた。

以前は、税金は高いし自分にはあまり関係がないと思っていたが、病気をしたくさん病院に通い、手術を受けた事を通して、税金のおかげで助けられている事に気づいた。自分の体が良くなるまで安心して治療を受けられたのは、身近な人や知らない人、たくさんの人達が出してくれた税金のおかげだった。税金は困っている時に見えない所で支えてくれている素晴らしい物だった。学校をはじめ道路や病院、公園などにも税金が使われていると知り、今は感謝する存在だと思っている。しかし、「本当に税金は正しく使われているのか」といった疑問も持っている。無駄遣いがないか、もっと良い使い方ができるのではないか、とも考えた。けれども税金はみんなが安心して生きる為に必要なお金であった。そのためにこれからは、ニュースを見たり、新聞を見たり、ラジオを聞いたりして税金がどう使われているかに目を向けていきたい。

「税の意味」

静岡市立中島中学校 2 年 佐藤 綾華

「税」についての作文を書くとき、税について考えました。私が税と聞くと、あまり良いイメージはありません。誰が、何のために、どのくらい払っていて何に使われているのか全く知識がありませんでした。

この国には、税がたくさんあります。所得税や消費税、住民税など聞き馴染みのある税から酒税や事業税、固定資産税など聞き馴染みのないものまで約五十種類もの税がある中で私達は日々生活しています。

税を払う意味とは何か疑問に思うが、税の使い道について調べると私の考えは一瞬にして変わりました。普段生活をする上で私達国民が常に払っているこの税には、私達の生活を支えるという役割がありました。税とは無関係だと思っていた中学生である私の生活に「税」は大きく関わっていたのです。私達学生が普段の学校生活で使っている、教科書やパソコンはもちろん、あることが当たり前になっている、実験道具や体育用具なども税があるからこそのものでした。他にも、公共施設や、公道にも多く税が使われていました。普段当たり前のように使っているものや、利用している施設は多くの国民が払っている税で成り立っているこの世の中から「税」という存在がなくなってしまうとき、私達の生活はどのように変化するのでしょうか。私達の生活に欠かせない公道は税によって整備され生活を便利にしています。公道は毎日人や車などが行き来したり、暴雨などの自然災害にさらされることで傷んでいきます。もし、税がなくなってしまうたら、修理するお金がないので、壊れたまま放置になり、事故が多発します。そんな世の中で生活をおくることは不可能と言っても過言ではありません。国民が毎日のように払っている税は私達の生活を支えることだけではなく、私達の生活が安心安全におくれるようにするという役割があると分かり、感謝すべきだと思いました。

税の仕組みを理解した今、一人の国民として一人の納税者としてやらなければならないことは、「自覚を持ち、感謝し続ける」ことだと思います。自分達が払っている税で、生活をより豊かにしているため、納税者としての自覚を持ち義務を果たさないといけないと思います。ですが、中学生である私は親や大人に頼ってしまう場面がたくさんあります。消費税以外で払わないといけない税を払ってもらって、学校生活が成り立っているからこそたくさん感謝をし続けることが大切だと思います。私はあと四年で成人を迎えます。支えられている身から支える身へと大きく変化します。成人を迎え、一人の大人として扱われ税を払うときは、恩返しだと思いながら責任を持って税を払っていきます。税を正しく払い正しく使える大人になりたいです。税で成り立っている世の中で「支える立場でもあり、支えられている立場でもある」という自覚を持って行動していきたいです。

「税で支え合う社会」

静岡市立中島中学校 3 年 堀井 大夢

この夏休み私はうでのけがで入院をしました。最初は不安な気持ちでしたが医師や看護師さんたちが支えてくれて、安心して手術を受けることができました。こうして安全に手術ができるのは、病院という場所や医療の仕組みが整っているからです。そして、その大きな支えとなっているのが税金だと気づきました。

普段の生活でニュースや新聞などでよく税金という言葉を目にします。今回の経験をする前は、買い物をする時に消費税がついているということは知っていましたが、そのお金がどのように使われているのか深く考えたことはなかったです。けれども今回の入院を通して税金は私たちの暮らしに直接関わっているものだと実感しました。

病院にはたくさんの医療機器があります。レントゲンやMRIなど、私たちが健康を取り戻すために欠かせないものです。これらをそろえるにはとても大きなお金が必要です。また、救急車や道路の整備、学校などのこれらの社会を支えている多くのものに税金が多く使われています。もし税金がなかったら病院に十分な設備がなく、けがや病気になってもすぐに治療を受けられなかったり教育が受けられないかもしれません。あるいは治療費や教育費がとても高額になり手術を受けられない、教育を受けることができない人がでてくるでしょう。誰もが安心して治療、教育を受けられるように制度を整えているのは、税金のおかげだと考えると普段何気なく払っている税金の一言一円にもとても意味があると分かります。

税金はよく「高い」とか「使い道がよく分からない」と言われます。確かに自分が払ったお金がどう使われているのかは見えにくい部分もあります。しかし、私のように病気やけがをしたとき、学校で学んでいるとき、道路を歩いているときなど日常のさまざまな場面、場所で税金は働いています。

私はこの経験を通して税金に対する考え方が変わりました。以前はただ取られるお金というイメージしかありませんでしたが、今ではみんなが協力して社会の安心と未来をつくるためのお金だと思うようになりました。これから先、自分が大人になって働くようになれば、当然今よりも多くの税金を払う立場になります。そのときには、ただの義務として払うのではなく社会の安心を作り誰かの役に立っていると思いながら払える大人になりたいです。